

新国立説明会非公開に

建築家ら「密室」辞退相次ぐ

二〇一〇年東京五輪の主会場となる国立競技場の建て替え問題で、事業主体の日本スポーツ振興センター（JSC）が「批判に対応する」として開催を明言していた説明会の対象を日本建築家協会など建築団体と一部の建築家に限定し、非公開で行う方針であることがJSCや同協会への取材で分かった。開催は七日の予定だが、参加要請を受けた建築家から「密室での議論は受け入れられない」と反発する声が上がっている。

（森本智之）

JSCは今の競技場を近く取り壊して、新しい競技場を建てる方針だが、計画案は「巨大すぎて明治神宮外苑の景観を壊す上、膨大な費用がかかる」として、建築家らから見直しを求める意見が相次いでいる。このため、基本設計案を承認した五月のJSC有識者会議で、委員で建築家の安藤忠雄さんが「意見を受け止めてしっかり説明していく必要がある」と発言。JSCの河野一郎理事長は、説

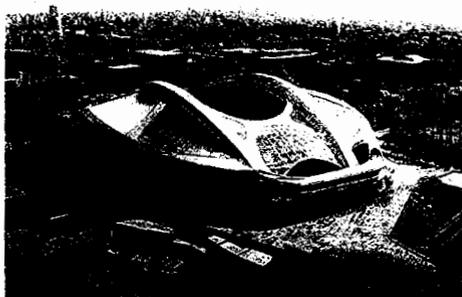
明会の開催を明言した。建築関係者によると、JSC側から建築家協会に申し入れがあり、建築関係の五団体の代表者のほか、計画に異議を唱える榎文彦さん、大野秀敏さん、伊東豊雄さん、松隈洋さんら数人が参加要請を受けた。

しかし、榎さんと松隈さんは取材に対し、参加を辞退することを明らかにした。榎さんは「少なくとも市民やマスコミに公開されなければ参加はできない。

これでは説明責任を果たすことにならない」と話す。松隈さんも「社会的に重要な問題を狭い範囲の人間だけで非公開で議論すれば、社会からの不信感を高める」と異議を唱える。ほかの建築家からも開催方法に反発する声が出ているという。

一方、日本建築家協会の筒井信也専務理事は「話し合いを始めなければ何も変わらない。七日の説明会には参加し、今後の公開での開催などを求めたい」と語った。

JSC新国立競技場設置本部の高崎義孝運営調整課長は「きたんのない意見交換のために非公開で行うことになった」と話した。



2020年東京五輪・パラリンピックのメインスタジアムとなる新国立競技場のイメージ。日本スポーツ振興センター提供